8/17/2004

＊倫理学特講＊＊＊＊ S.Ashina

＜受講の注意＞

A.講義のテーマ・目標

本講義は、宗教とは現代人にとってどんな積極的な意味をもっているのか、という問いに対して、現代宗教学の立場から客観的に論じることを目標としている。そのためにまず、歴史的現象としての宗教（とくに、キリスト教）の基本構造を現代宗教学の方法（宗教現象学、宗教社会学など）によって解明する。そして次に、宗教の視点から現代における倫理的諸問題について考察し､宗教思想の可能性について議論を行ってみたい。

１．宗教現象の基本構造を宗教学的に分析する（現代宗教学)。
２．宗教の言語論、テキスト論、実在論に注目する。
３．宗教の観点から倫理的諸問題を検討する。

B.注意事項

本講義を受講するために、キリスト教や宗教についての特別な予備知識は要求されないが、受講者に対しては、教科書や配布プリントなどによる積極的な学習態度と、人間や社会についての知的好奇心を期待したい。

１．先入観・偏見から自由になること（自己反省・自己相対化)。
　　一神教と多神教の対立、キリスト教は西洋の宗教、宗教は非科学的
２．自分自身のテーマとの関連に注目すること。
　　宗教から人間理解へ。具体的に考えること。

Ｃ．授業予定

＜倫理学特講＞（シラバスに記載した講義順序を若干変更）

オリエンテーション
１　宗教学とは何か－新宗教論－
２　現代宗教学と宗教現象のモデル化
３　意味の問いとしての宗教
４　宗教現象学と信仰論
５　聖なるものの現象学
６　宗教的象徴と隠喩論
７　宗教的実在とは何か
８　宗教思想と聖書
９　創造論の諸問題－フェミニスト神学－
１０　キリスト教的人間理解－人間、その光と影－
１１　キリスト教と近代世界１－経済倫理－
１２　キリスト教と近代世界２－政治倫理－
１３　生命倫理と宗教
１４　環境倫理と宗教

１５　情報化と宗教

＜教科書＞

テキスト：芦名定道　『宗教学のエッセンス』（北樹出版）

その他に、講義では毎回プリントを配布する。

＜成績評価の基準＞

・レポート試験（詳細は講義にて指示）

＜導入＞

１．キリスト教の歴史的位置づけ

・旧約聖書（ユダヤ人の聖書）＝古代イスラエル宗教史から（オリエント起源）

・ヘレニズム世界におけるキリスト教会の確立（キリスト教の多様性）

→　ローマ帝国

→　東：ギリシア文化圏　ギリシア正教会、ロシア正教会

西：ラテン文化圏　　ローマ･カトリック教会、プロテスタント諸教派

ゲルマン、西欧文化の基盤

cf. 東あるいはアフリカへ伝播したキリスト教：正教会グループ

エジプト・エチオピア：コプト教会

シリア文化圏→中央アジア・インド

・聖書の宗教：ユダヤ教、キリスト教、イスラーム　　cf.マルクス主義

２．キリスト教の多様性と共通性

・あまりにも多様、単純な定義ができない

・共通性：正典としての聖書、基本的信仰箇条、（三位一体論）

３．現代宗教学とは

(1)広義の宗教学（宗教についての学問的研究）

神学／宗教哲学／現代宗教学（経験科学としての宗教学）

(2)経験科学の方法論による宗教現象の分析

・価値中立性、経験から本質・規範へ

・宗教現象学、宗教史学（比較宗教学）、宗教人類学（民俗学）、宗教社会学、宗教心理学、宗教地理学、宗教経済学、宗教芸術論

(3)宗教現象のモデル化：４次元モデル、「Ｓ－Ｍ－Ｏ」モデル